

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4170300489 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人菜々の会 | | |
| 事業所名 | グループホームめぐみ | | |
| 所在地 | 〒841-0066 佐賀県鳥栖市儀徳町2907番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年2月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会 |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 |
| 訪問調査日 | 平成28年10月19日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族の希望に添えるように、一人一人に寄り添い、日々を穏やかに過ごせるように、精神安定につながった、援助に力を入れている。拘束ゼロ、施設は行わず遠目の見守りで決して制止したりせず、受け入れたケア、楽しみの食事にも力を入れてバランスのとれた食事の提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に立地し裏の広場で遊びに来た子供たちと、日常的な交流をしている。それぞれの人生を生きてきた入居者一人ひとりの人格を尊重した支援がなされている。家族や知人の訪問も多く、聞き出せたご希望や生活暦等を支援に活かすよう努めている。防災対策も地域の一員として地震、風水害を含めた計画作りに参加し、食糧備蓄や頭巾作成など独自の準備をしている。また、新鮮で安全な食材を使用し、家庭的な味の栄養バランスの取れた彩り豊かな食事を入居者と共に準備するなど食事が楽しみとなる工夫をしている。入室時の声かけとノック、食事や行動の際のさりげない見守りは、入居者のプライバシーの確保とできることはなるだけ自分の力でという精神に裏付けられ、穏やかで温かい空気に包まれたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが | | | | |

1. 多岐山口 (40)

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念に基づき運営事項等の実践に繋げるようにホール内の目につく所に掲げている。 | 理念はホールに掲げ、毎朝朝礼時の唱和や会議などでの振り返りを行い、共有に努めているが、職員間の共通理解は十分とは言えない。 | 新任職員の教育や、日常の支援活動の振り返りで、理念を中心に考えていくことでより充実した支援に期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事への参加(敬老会・いきいきサロン等)への招待に職員付き添いにて参加され、地域のお世話を下さる方々との交流が出来ている。 | 地区の入居者には敬老会への招待があり、参加している。散歩の時や近くの空き地に遊びに来た子供たちと交流がある。また、近所の人からの野菜の差し入れもあり、地域の方との交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の歯科医師等の協力を得てホームの案内をして頂き、地域の行事への職員の参加アピールに繋げている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月毎に推進会議を行い、ご家族も参加して頂き委員の方々との交流をして頂きながら、サービスの向上に活かしている。 | 2か月に1回開催し、出された意見についてはサービス向上に活かしている。欠席者にも必ず会議内容について報告している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 推進委員会への参加、委員会でのオープン化、日々疑問、わからない事・相談取り組みに指導を受けている。 | 日常の活動でわからないことの相談やヒヤリハット等の報告を行うなど、行政担当者と日頃から連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修参加。参加者による学習会を開き具体的な行為、身体拘束に繋がる理解が出来ている。 | 日中の施錠はせず、職員の見守りや対応を工夫することで身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、学習会を開き、職員の共通理解を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待にあたる言葉、関わり方、セクシャルハラスメントについても資料を基に学習会を行っている。又他の施設に於いての事件等の際、即、ミーティングをおこなっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会参加、情報を元に家族の選択肢の一つに入れながら、対象者の状態に応じ家族と繰り返し話し合い実践を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前の見学ご本人様の生活されるにあたり、適しているか検討の上十分な説明、不安、疑問点、に心掛け納得のいく契約に心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 推進委員会への参加(、家族会に準じる)意見が地域や外部者、職員に伝わっている。 | 家族が毎月面会に来ており、職員の声掛けにより話しやすい雰囲気を作っている。相談があれば速やかに対応し、返事を出している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関しては職員の意見提案の場の設けはなされていない。 | 月1回会議では、管理者が必ず出席し職員の意見を聞いている。職員が発言する機会を設けるなどの工夫をしている。出た意見はできる限り否定せず、検討した上で職員へ回答することで、反映できるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の個々の実情に応じた勤務状況の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 時間の調整を行い研修の機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 参加出来る範囲は行っているが実情として時間が取れない状況です。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前入所時のアセスメントにより本人家族の希望に添える様に計画を行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所時のアセスメントで本人様の気持ちを伝え家統の出来る範囲を調整一緒に計画づくりを行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 紹介あればまず、見学して頂き対象者の生活の場として適しているかどうか(環境や雰囲気)を見極めて頂き他の施設の見学も勧め十分な配慮を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食材の下処理、食事の準備を一緒に行い、同じ食事をする事で信頼関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームでの出来事を家族の面会時に限らず逐次報告する事で家族・職員との関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の方の面会を受け入れ地域行事への参加、地域の方とのふれあい、ホームの行事への呼びかけ、一緒に食事を摂って頂き参加出来ない家族に代わって地域の方と楽しく過ごして頂いたりしている。 | 知人の面会を受け入れ、楽しく過ごしていただくよう、居室へ案内したり、必要に応じて会話の仲介したりしている。また、美容院やお店に行くなど、馴染みの場所との関係継続にも努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者さん同士では難しいコミュニケーション、も職員を通して孤立化、引きこもり状態にならない様に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 訪問や面会家族のフォローに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントは繰り返し行い計画に反映するように行っている。本人の意向希望が取り入れられるように小さな事の取り入れから実施している。 | 入居者一人ひとりの生活歴をもとに、日常の会話や表情から思いをくみ取っている。家族からの情報も参考にしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントの反映、新たな問題等については家族に粗段の上、計画にあげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々管理者を含め全職員が計画を提供する中で意識を持つ事で状態把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリング、担当者会議の実施、Dr、家族の意見、希望を取り入れ本人を交えて計画作成にあたっている。 | 本人の意向を大切に、家族の意見や医師の意見を参考に、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施するが、状況に応じて随時計画を見直している。職員が誰でも手に取り、見ることができる場所に置いて、情報の共有を図っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の支援経過記録の徹底細やかな観察記録等を目を通すことで計画変更に生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時の状態に応じて柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事等には積極的に参加。ホームでは感じ取れない雰囲気や参加者の向上に繋がっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に在宅時のかかりつけ医の継続ホームの主治医の選択を行っている。主治医とは居宅療養の契約を取り交わし定時月2回の往診を受けている。専門医受診は家族に対応して頂くが困難時は職員が対応している。 | 入居時に、かかりつけ医の継続やホームの主治医の選択ができるよう説明し、本人・家族の意向を聞いて対応している。かかりつけ医の継続や他科受診の際にもホームの支援を受けることができる。受診後は家族へ電話するなど情報の共有に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の観察、状態変化を確実に看護師・職員に申し送りDrへの繋がりをやっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院側・ソーシャルワーカー・看護師・介護支援専門員等で情報交換を密に行い、入退院がスムーズに行える様に信頼関係を築いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時、契約の段階で看取り態勢の説明、ホームで関われる範囲の説明、選択肢の投げかけ、状態に応じ主治医より家族への説明が早めに行われている。看取りについては本人家族を支えるために職員間で話し合いながら、対応している。 | 看取り支援を行なっている。入居時と状態に応じて家族へ説明を行ない、意向を確認している。看護師の夜勤や、内部・外部の研修会の参加など、看取りの体制はできている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一般的な救急に対して研修会を設け対応の仕方を身につけている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の訓練を夜間帯の対応も行っている。緊急時は民生委員や近隣の家族等に自動通報が入る様にし、訓練に参加して頂いている。 | 避難訓練は年2回、消防署立会いのもと行なっている。また、夜間を想定した訓練も行っている。夜勤専任職員を含めた全員参加できるようにしている。緊急連絡網に民生委員や近隣の家族も入っており、地域の方の協力も仰いでいる。地震や風水害対策も地域で検討が進んでいるが、ホーム独自でもできることから対策を進めていく予定である。 | 地域の消防団が参加できる行事などホームの状況を知る機会作りや、地震風水害などについて、ホーム独自の災害対策の検討をすることで、入居者の益々の安全確保につながることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日常生活に於いて個別に尊重の念を重視し人生の大先輩としての、関わりを行っている。居室へ入る際も声かけを行いながら、プライバシーを損なわない様に心掛けている。 | 入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや接し方に配慮している。入室時は声かけとノックをし、プライバシーに配慮している。見守りも正面からではなくさりげなく寄り添うようにしている。また、重要書類は鍵付きの書庫に保管するなど、個人情報の取り扱いにも注意をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に寄り添った関わりで察知し、本人の思いを聞いたりしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のリズムに合わせ生活の援助を行っている。夜は一人体制にて安全確保の為職員に合わせて頂く事が多い。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2か月に1回美容師さんの訪問にて希望に沿ったスタイルに。又自室から出かけられる際は、ブラッシングを行い | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の下処理のお願いから、カウンター越しに飛び交い調理の音匂い等から空腹感が増し全員完食へと繋がっている。又配膳の準備、片付けを手伝って頂いている。メニューに於いても希望を出来るだけ取り入れている。 | 献立に食べたい物の希望を取り入れ、買物や下ごしらえ、片づけなど、できることを入居者と一緒に行っている。健康保持のため、良い食材の確保に努め、味や栄養のバランスの良い、見た目にも豊かな食事を提供しており、入居者の完食につながっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日常の食事摂取量・飲水量の記録・体調を観察しながら、不足時は早めに対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアの徹底・訪問歯科の口腔ケアのチェック・処置の実施で清潔保持が出来快適に過ごして頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを考慮し、少しでも快適に過ごして頂く様に出来るだけオムツ廃止へと心掛けている。 | チェックシートを利用し、排泄パターンを把握したり、仕草などから判断し、トイレに誘導したりすることで、おむつやリハビリパンツ使用を減らすことにつながっている。トイレ誘導時の声の大きさなど羞恥心への配慮をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 多くの野菜を提供し、便秘気味の方へは根菜類の提供を心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個浴にて利用者様の状態に合わせた介助を行い週2回ゆっくりと楽しんで頂いている。1日に4～5人。拒否される際は無理強いをせず、タイミングをみて楽しんで頂いている。 | 週2回入浴を実施しており、希望や失禁など状況に応じて対応している。入りたがらない入居者には、タイミングや声かけの内容を変えるなどの工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 長時間になると疲れが生じる為、休憩時30分程度で横になって頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 居宅療養の契約もあり、訪問を受け、個別の管理をおこなっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 人の為に役に立ちたいとの希望があり、役割をその方の能力に応じて行って頂いている。(トレイ拭き・テーブル拭き・掃除・洗濯物干し・たたみ・食器拭き・書き物等) | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気・健康状態を考慮しながら日々、散歩を行っている。利用者様の意向を聞き今年は戸外へ。ぶどう狩りへ出かけ、楽しんで頂く事が出来た。ご家族様も喜ばれた。 | 天候や体調をみて、近所への散歩や買い物、ドライブなどの機会がある。果樹園でブドウ狩りを楽しんでいただくなど、今後も季節の花見や果物狩りを予定している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ホームに於いては買い物等のご家族として頂く様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方におられるご家族には便りの交換をしてコミュニケーションを図って頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快なおいがない様に毎日2回のトイレ掃除を行っている。又季節感を味わって頂く様に掲示物を利用者様と共に作っている。 | 掃除が行き届き、快適な生活空間が保たれている。気温、換気、湿度、音への配慮がなされ、不快な匂いはない。ホールには、入居者と一緒に作った作品が飾られており、収穫の秋の雰囲気満ちている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内での席の確保が難しく利用者様の精神安定の為時々席替えを行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族の写真や思い出の写真、お手紙を飾ったりそれぞれの特色を生かし工夫している。 | 居室には、家族の写真や入居者の作品、思い出の品などが飾られている。危険物以外は持ち込み自由で、入居者と相談しながら配置をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日常生活のリハビリ、屋内の移動(トイレ・洗面・入浴)で出来る様に作られている。 | | |